

「ささやかな光の表現が、世界を知覚する
その方法をほのかに照らす」
「テート美術館展 光 ターナー、印象派
から現代へ」内解説パネルより



目次

- ・ 短歌 …… 3
- ・ 掌編① 駅前のコンビニ …… 4
- ・ 掌編② 光に届くまでの距離 …… 5
- ・ 掌編③ きみとバカンス …… 6
- ・ 掌編④ 亡霊 …… 7
- ・ 掌編⑤ ゴールテープにもつれこむ …… 8
- ・ 閑話休題 会話の練習 …… 9
- ・ 掌編⑥ 花火 …… 10
- ・ 掌編⑦ flock …… 11
- ・ 掌編⑧ Nina …… 12
- ・ 掌編⑨ 海 …… 13
- ・ 掌編⑩ ぜんぶ河 …… 14
- ・ ある日の日記 …… 15
- ・ エッセイ① …… 16
- ・ エッセイ② …… 17
- ・ 手紙（書き下ろし） …… 20
- ・ 短歌 …… 21
- ・ あとがき …… 22

駅前コンビニ

駅前のコンビニが閉店するまでの数日間、徐々に陳列棚の商品が補充されなくなって空白ばかりが目について、ついに今朝前を通ると白粉を塗ったように幕が降ろされていて、赤のフオントで営業終了を知らせる張り紙があった。祖父が死んだ時はよくわからなかったな。香が焚かれた部屋で鼻と口の中が白かった。脱脂綿詰めてんねん、と教えてくれたのは誰だったろうか。体液とか、出んようにしてんのやって。葬式らしいでと先生に言われるがまま職員用の通用口に出たら母がキャリーケースを引いて立っていた。行くで。抜け出した授業はあの後何を教えていたのだろうか、わたしは何を聞きそびれたのだろうか。声は届かない、死者と同じだ。給食は何だったろう。引き戸の脇にあるボードに貼られた今月の献立を思い出してみたけど、あれはまだ先月のままかもしれない。貼り変える当番は誰やったっけ。背中を押されて反射で立つ、最後に声をかけてあげてくださいと言われて戸惑う、人間みんな最後は灰と煙になるんやな。おれも？ 着慣れないジヤケットのポケットにブラックサンダーの包装紙が確かあったな。同じ味のんがそのコンビニでも買えた。それは結構最後まで商品棚にあって、それだけは補充され続けていたのかもしれない。もっと買っておけばよかった、また買いに行こうと思ったけど、もうないんやった。